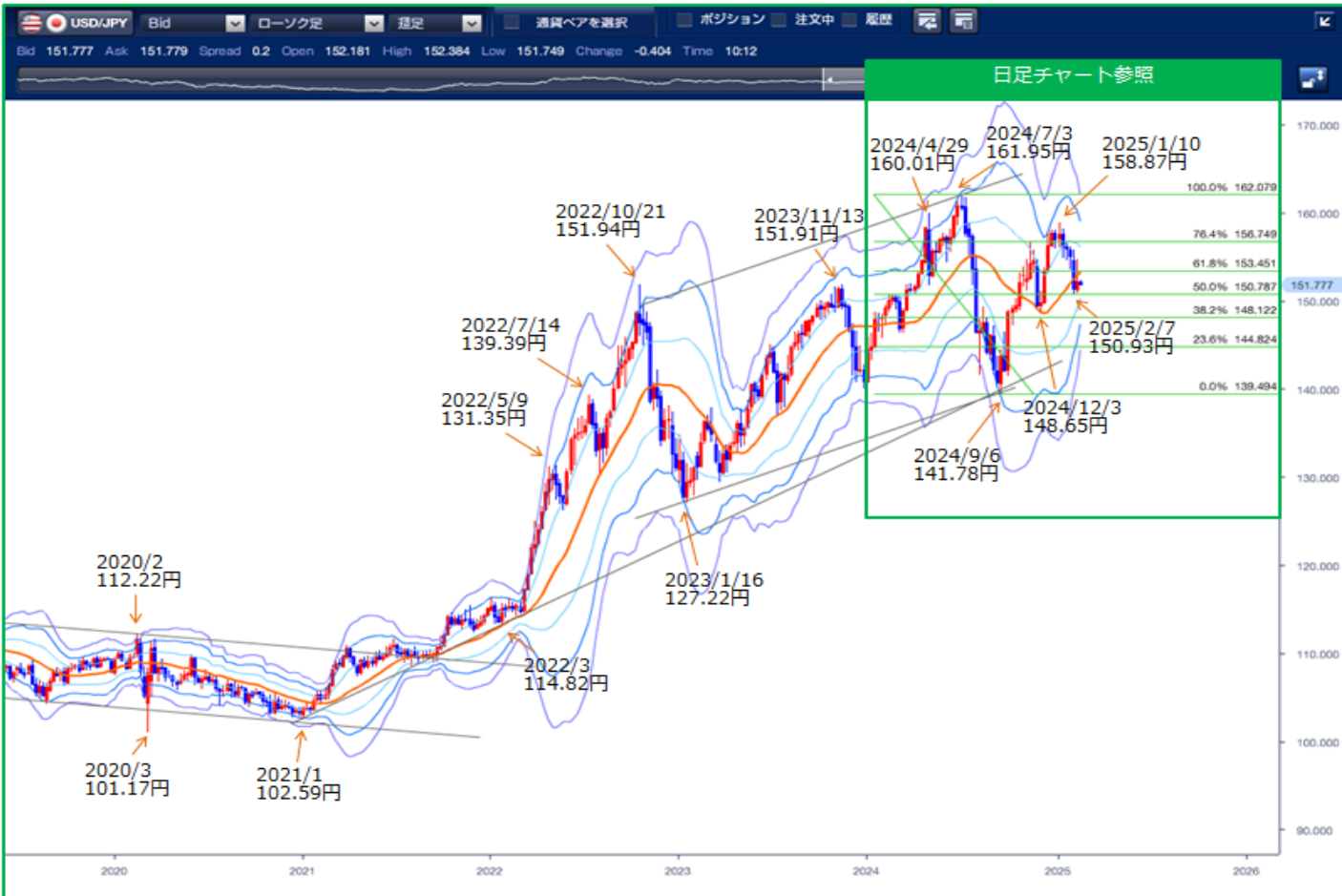


週足



長期概況

2021年1月安値102.59円を起点とした上昇トレンドが継続中。
 2022年3月のFOMCで米利上げが開始され、2022年10月には、151.94円まで上昇しましたが、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由に2023年1月に127.22円まで下落しました。ただ、日米金利差を背景としたドル買いは根強く、2023年11月には151.91円まで値を戻し、その後、2023年末にかけて、日銀による金融政策変更観測や米早期利下げの思惑により140.25円まで下落しました。
 2024年に入り、3月の日銀会合で利上げ(17年ぶり)が決定されたものの、緩和的な金融政策は維持されるとの見方からドル買いが活発化し、4月には160.01円まで上昇しました。160円突破により政府・日銀による円買い介入が実施され、152円割れまで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売り圧力により、7月には1986年12月以来の161.95円まで上昇。その後、再び円買い介入が実施されたことや、日銀7月会合で政策金利を0.25%(16年ぶり)へ修正、米金利早期利下げ観測の再燃により、8/5に141.70円まで急落、9月半ばには139.59円まで下落しました。
 2024年末にかけて、米国の利下げペース鈍化や、日銀の金融政策維持を理由に再びドル買い優勢となり、158円台まで回復しています。

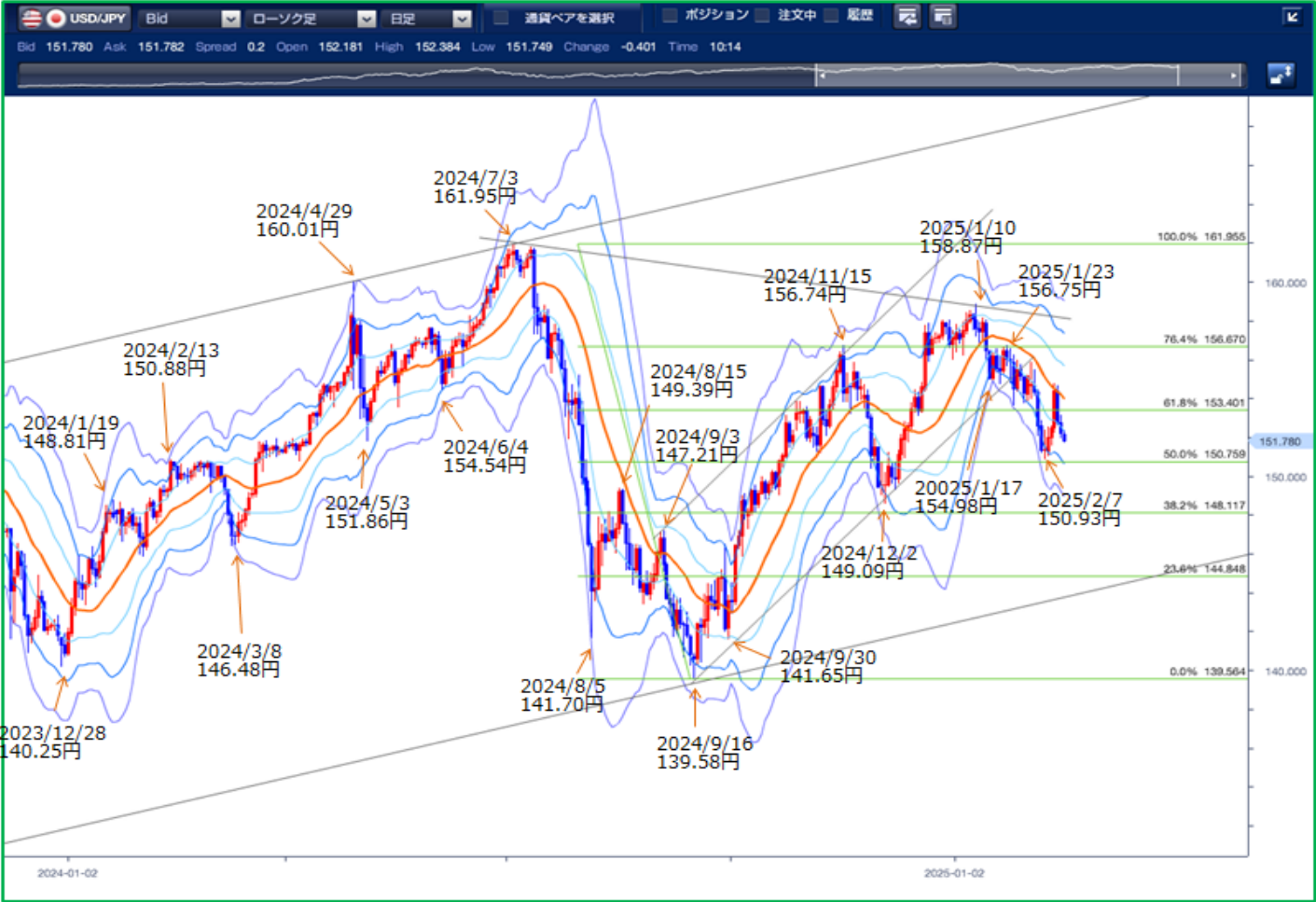
【2025/2/10～2/14】

2月第2週のドル円は、151.33円から始まり、154.80円(2/12高値)まで上昇した後、軟調に推移し、152.03円(2/14安値)まで下落しました。

パウエルFRB議長が議会証言(上院銀行委員会)で、「経済は強さを維持しており金利調整を急ぐ必要はない」と表明したことで追加利下げ観測が後退したほか、2月12日発表の米1月CPIが市場予想を上回る強い結果だったことで154.80円まで上昇しました。
 その後、翌13日発表の米1月PPIも市場予想を上回る強い結果となったものの、トランプ米大統領による相互関税導入が、世界的な貿易摩擦を強めるとの懸念が広まり、リスク回避のドル売り円買いにより152.70円まで下落しました。
 週末14日に発表された米1月小売売上高が、前月比(予想-0.1% 結果-0.9%)、自動車を除いた同指標(予想0.3% 結果-0.4%)と市場予想を大幅に下回る結果を受け、ドル売りが優勢となり、152.03円まで下落しました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が下向きとなっており、下落を示唆しています。
週足ボリンジャーバンドは、中心線は上向きですが、バンド幅は収斂しており、もみ合いを示唆しています。
以上のことから、2/17～2/21の週間予想レンジは以下の通りです。

予想レンジ 150.30 ～ 154.00円

注目レート		テクニカル
上値②	154.00	・大台 ・1/10高値158.87から2/7安値150.93のフィボナッチ38.2%戻し近辺
上値①	153.15	・2/14高値
下値①	151.00	・大台 ・2/7安値近辺(150.93)
下値②	150.30	・ボリンジャーバンド週足-1σ近辺

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。